



これからの気候はどうなる？

～日本の気候変動2020－大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書から～

今年、真鍋淑郎先生がノーベル物理学賞を受賞されました。真鍋先生は大気と海洋を結合した数値モデルを世界に先駆けて開発され、二酸化炭素の増加が地球温暖化につながることを明らかにされました。

文部科学省と気象庁は、数値モデルを使って、パリ協定の2℃目標が達成された場合及び現時点を超える追加的な緩和策を取らなかった場合の将来予測を行っています。

豪雨や強い台風が増加する予測がなされており、災害に備えることがさらに重要になってきます。

20世紀末と比べて21世紀末の日本の将来予測のイメージ！

年平均気温が約1.4°C/約4.5°C上昇



猛暑日や熱帯夜はますます増加し、冬日は減少する。



激しい雨が増える

日降水量の年最大値は
約12% (約15 mm) / 約27% (約33 mm) 増加
50 mm/h以上の雨の頻度は 約1.6倍/約2.3倍に増加



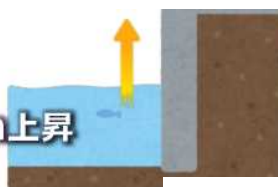
強い台風の割合が増加
台風に伴う雨と風は強まる

海面水温が約1.14°C/約3.58°C上昇



温まりやすい陸地に近いことや暖流の影響で、予測される上昇量は世界平均よりも大きい。

沿岸の海面水位が
約0.39 m/約0.71 m上昇



日本南方や沖縄周辺においても
世界平均と同程度の速度で
海洋酸性化が進行



詳しくはこちらから  <https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

宮古島地方気象台

検索 

宮古島地方気象台ホームページ
<https://www.jma-net.go.jp/miyako/>



お問い合わせ先: 宮古島地方気象台 TEL: 0980-72-3054 (平日のみ / 8:30~17:15)